

3

実施団体の活動

金沢大学 演劇部劇団らくだ『キャッシュカード詐欺』

代表者：金沢大学人間社会学域人文学類 准教授 佐藤 文彦

応募動機（企画提案書より）

演劇部では、日頃から大学生などを対象に公演を行っているものの、高齢者を対象とした演目や社会問題を扱う演目を企画することは少ないため、この機会に実施したいと考えました。

テーマ選定理由（企画提案書より）

高齢者の消費者被害として、電話を使用するものが大変多く、電話を使った手口は詐欺被害の中でも最も身近であるとともに、悪質な新しい手口がどんどん増加している分野でもあるため、テーマとして選定しました。

あらすじ

ある日、1人暮らしの金子おばあちゃんの家、「金沢銀行」をかたる電話があり、おばあちゃんの銀行口座が不正に利用されていると言われます。

驚く金子おばあちゃんに、偽物の銀行員（詐欺師）は、預金を悪用されないためにはキャッシュカードと暗証番号を変更する必要があるので、「ご自宅にキャッシュカードを取りに伺う」と言います。



信じた金子おばあちゃんは、住所を教えてしまい、やってきた男にキャッシュカードと暗証番号を書いた紙を渡してしまいます。

数日後、訪ねてきた孫の沢子ちゃんにこれまでのことを話すと「それ、詐欺だよ！」と言われます。



その後銀行や警察に相談すると、金子おばあちゃんの預金がほとんど引き出されていたことがわかりました。

最後に、劇の場面を振り返りながら、だまされないためのポイントを解説しました。

～！注意すべきポイント！～

- ①銀行や警察などもっともらしい肩書や見た目にだまされない
- ②銀行や警察がキャッシュカードを受け取りに来たり、暗証番号を聞き出すことは絶対ない



- ③怪しい電話や消費者トラブルは消費者ホットライン「188」に相談

【参加学生の感想】

今回、詐欺被害防止についての寸劇を制作するにあたって、セリフを考えたり実際に練習したりすることで、詐欺グループはもっともらしい身分を使って高齢者に信じ込ませ、不安を煽るように話を進めていくことがわかりました。自分たちで調べ、考えた寸劇を披露することで、資料を読むだけでは伝わらない臨場感を以て詐欺の手口をお伝えすることができたと思います。

またユーモアを交えて楽しく、分かりやすく学ぶことで、より皆さんの記憶に残りやすくなったのではないかと感じました。私たち自身も詐欺被害について勉強をすることができたのはもちろん、普段はあまり接することのない石川県各地の高齢者の方々とお話をし、練習の成果を見て頂けてとても貴重な体験となりました。(2年)

【講評】

名札などの小道具がよくできていて見やすく、そのためとてもわかりやすい劇になっていました。暗証番号「8931 (はくさい)」のころ合わせでは毎回笑いがおきるなど、楽しい雰囲気の中で、しっかりと注意喚起ができていました。



銀行員や警察がキャッシュカードを取りに来たり、暗証番号を聞き出すことはありません！

金沢大学 家政のピヨコたち『アポ電』

代表者：金沢大学人間社会学域学校教育学類 教授 尾島 恭子

■ 応募動機（企画提案書から）

人間社会学域学校教育学類家政教育専修の学生は、毎年本事業に応募し活動しており、その意義を十分理解しており、活動への意欲は高いものとなっています。構成メンバーは全員、小学校教諭および中学・高校の家庭科教諭の教員免許を取得予定であり、学校教育において家庭科は消費者教育を扱う科目の筆頭にあげられることから、本事業への参加の経験を、将来教員となった後の学校教育現場で活かすことが期待できると考えました。

■ テーマ選定理由（企画提案書から）

最近、「アポ電」という言葉をニュースでもよく見るようになってきているため、石川県の高齢者の皆さんが実際に被害にあわないよう寸劇で披露することにしました。また、アポ電に限らず、高齢者の弱みに付け込む電話による勧誘・詐欺は依然として多いので、電話で詐欺にあわないための注意喚起もしっかり行いたいと考えました。

■ あらすじ

ある日、石子さんの家に、**銀行協会を名乗る者からアンケート調査の電話がかかってきます。**人のいい石子さんは聞かれるままに、住所や一人暮らしであること、利用している銀行などの個人情報を答えてしまいます。



その数日後、今度は**銀行を名乗る者から電話がかかってきて、「銀行のオンラインシステムから個人情報が流出して、口座を凍結する可能性が出てきました。1時間のうちに対処しないと、口座の残額がゼロになってしまいます。」**そうならないためには、暗証番号を変更する必要がありますので、**これからキャッシュカードを取りに伺います。」**とされます。

少し不安に思ったものの、話を信じた石子さんはキャッシュカードを準備し始めます。

そこへ近所の川子さんが遊びに来たので、石子さんはこれから銀行の人が来ることを話しました。





川子さんから「おかしい」と言われ、前もって一人暮らしか、お金はあるか等と電話で聞いてから詐欺や強盗に来る「アポ電」の手口について聞きます。

ちょうどその時、キャッシュカードを取りに来た偽銀行員は、話し声を聞いて帰って行きました。

その後、石子さんは川子さんから「知らない電話は疑う」「自分のことは言わない」「誰かに相談する」「188で消費生活センターに相談できる」といった被害にあわないための注意事項を聞きます。

また、民生委員の金子さんからは地域の見守り活動についての話を聞きました。



最後に、被害にあわないために「知らない人からの電話はまず疑うこと」「何かあれば、1人で決めずに誰かに相談したり、188に連絡すること」を確認し、周りの人にも教えてあげることができるといいですねと会場の皆さんに呼びかけました。



【参加学生の感想】

初めは緊張と不安もありましたが、どこへ行っても温かく迎えて下さり、寸劇が終わると毎回ほっこりした気持ちになりました。私たちの演技の細部まで反応して笑ってくれ、「消費生活センター」「188」の場面では、頷いて口ずさんでいて、ここにいるおじいちゃんおばあちゃんには、絶対消費者被害にあわないでほしいという気持ちが生まれました。（3年）

寸劇を通して、多くの方に詐欺や悪質商法がどういふものか知って頂けたと思います。役を演じて、言葉巧みに誘導して騙そうとする人たちがとても怖いと感じました。普段の生活の中でも、寸劇を思い出して絶対に騙されないで頂きたいです！（3年）

【講評】

「アポ電」の手口が非常にわかりやすく描かれていました。また「知らない電話はまず疑う」「自分のことは言わない」などの被害にあわないための注意事項についても、友達との会話の中で自然に紹介されており、納得できる流れとなっていました。



知らない人からの電話はまず疑い、個人情報を話さないようにしましょう。何かあったら、1人で決めずに誰かに相談。「消費者ホットライン（188（いやや）」にも相談できます。

北陸学院大学 真砂ゼミ・松下ゼミ 『口座使われてますよ詐欺』

代表者：北陸学院大学人間総合学部社会学科 准教授 松下 健

応募動機（企画提案書より）

真砂ゼミでは高齢者福祉学を、松下ゼミでは臨床心理学を専門に学んでおり、高齢者を消費者被害から守るためには、高齢者やその家族に働きかける必要があると考えています。被害者となる高齢者だけでなく、ご家族に高齢の方がいる人にも、寸劇を通じて消費者被害に理解を深めてもらうことで、被害を予防できると予想されます。これまでの活動経験を踏まえ、さらに被害防止に貢献できればと考えています。

テーマ選定理由（企画提案書より）

石川県における平成30年中の特殊詐欺の被害は、石川県警によれば61件、被害総額は約1億6,800万円です。特殊詐欺の手口は電話を使ったものが多く、これらの被害拡大を防ぐことが重要と考え、オレオレ詐欺を含む電話勧誘を取り上げることになりました。

あらすじ

1人暮らしのおばあちゃんがいつも参加している老人会では、見たこともない電話番号から電話がかかってくるのが話題になっていました。しかし、すぐに電話を切れればいだけの話と気に留めていませんでした。



ところがある日、おばあちゃんの家には警察を名乗る電話があり、捜査している詐欺グループの名簿におばあちゃんの口座情報が載っており、危険な状態なので、お金を銀行が用意した安全な口座に移すように言われます。

信じたおばあちゃんは、近くのショッピングモールのATMで送金しようとしていますが、待ち合わせしていた孫にこれまでのことを話すと、「もしかして、それ詐欺なんじゃない?」と言われ、特殊詐欺であることに気がつきました。





おばあちゃんは、友達にもこの事件について話し、お互いに知らない番号や怪しい電話には気を付けようと話し合いました。



最後に、劇の内容を踏まえて注意喚起を行いました。

不審な電話などで不安に思ったら、

・188に相談する

とっさの時に188を忘れないためにも、

・電話の横に注意書きのメモを用意

電話に録音機を設置することで詐欺を未然に防ぐ効果があるため、

・録音機を設置

【参加学生の感想】

多くの事を学ばせていただきました。特に私が学ばせていただいたのは人と何かを協力して行うことと誰かのために尽力することだと思います。これからの時代、詐欺防止に関わらず多くの世代の人と関係を構築していかなければならないと思います。様々な世代の人と交流を持つこの事業に参加でき、とてもよい経験になりました。(3年)

演技の上手さよりも伝えようとする気持ちが大切だということ学びました。しっかり準備しても公演でセリフを忘れたり、立ち位置がわからなくなることがありました。見てくださる高齢者の方たちはそのような時も温かく見守ってくださいました。その経験から上手にやるよりもどうやったら伝わりやすく面白くできるかを考えるようになりました。(3年)

【講評】

不審な電話や相談窓口の「188」について事前に知っていても、実際に電話を受けてしまったら忘れてしまったなど、説得力がありました。また、被害の未然防止に有効な録音機や留守番電話についても触れるなど、被害防止に役立つ内容となっていました。



不審な電話などで不安に思ったら、消費者ホットライン ☎188に相談しましょう。忘れないように電話の横にメモしておくのもよいですね。また、録音機を設置したり、電話を常に留守電にしておくことも、被害防止に有効です。